



八橋 龍二議員

Q 災害時の障害者対応について
避難所の受入体制は万全か

A 障害のある人や高齢者が安心して利用できる
よう、公共施設のバリアフリー化を進める



その他の質問

- ・障害者差別解消法について

Q 個別避難計画の進捗状況は。

A 「彦根市災害時避難行動要支援者制度」を設け、避難支援等を希望する人を登録した「災害時登録者名簿」を作成。令和8年1月末現在で2,420名登録しており、この名簿には個別避難計画に必要な内容を網羅しているため名簿登録者全員の個別避難計画を作成しているものと位置付けている。

Q 医療的ケアが必要な方への備えは。

A 人工呼吸器を装着している方には令和6年度から日常生活用具給付等事業で外部バッテリー等を追加。また人工呼吸器や酸素吸入、たん吸引など医療的ケアが必要な方については彦根保健所が中心となり難病患者や小児慢性特定疾病の方について対象者のリストアップを行い「災害時対応ノート」を作成し、本人や家族、関係機関で非常時の対応を確認し停電時の備えを共有している。



▲共生社会のイメージ



森野 克彦議員

Q 県立高校の入試制度の変更に伴い
今後の進路指導で注意すべきことは

A 丁寧な情報提供を行い生徒一人ひとりの
思いに寄り添った進路指導に努める



その他の質問

- ・給食の残食を減らすために今後どのような取組を進めていくのか

Q 県立高校の入試制度の変更に伴い今後の進路指導で注意すべきことは。

A 滋賀県における県立高校の入試制度の変更と私立高校の授業料実質無償化に伴い、入試事務について保護者から中学校への問い合わせが多くなったため、保護者連絡用ツールを活用して「よくある質問と対応」で情報を周知する工夫など、学校独自で行われた好事例について市内中学校で共有していく。また、制度の変更点などの課題について各中学校と連携しながら、より丁寧な情報提供に努め、生徒および保護者が安心して進路を選択できるよう、市教育委員会と中学校との連携を図りながら、教職員が生徒一人ひとりの思いに寄り添った進路指導に努めていく。



▲滋賀県立高等学校入学者選抜新制度概要説明リーフレット



上杉 正敏議員

Q 消防団組織の再編の検討をしてはどうか

A 消防団との意見交換を重ねながら検討していきたいと考えている



その他の質問

- ・国道8号交差点交通渋滞対策について
- ・電子投票導入について

Q 彦根市消防団組織の再編の検討をしてはどうか。

A 県内他市町においては、既に消防団の組織体制や団員定数の見直しを行っているところがある。本市における団員確保についても益々厳しくなると考えられ、消防団の組織や定数について何らかの検討が必要であり、分団の管轄区域の再編についても対象になると考えている。しかしながら、それぞれの地域において消防団員の確保に苦慮しているなかで、団員確保をはじめ消防団活動の各般にわたり自治会の方々には多大なご協力をいただいているなど、消防団活動については、地域との繋がりが非常に重要であることから、消防団との意見交換を重ねながら、検討していきたいと考えている。



▲春の防衛訓練に参加された消防団員



辻 真理子議員

Q 「無痛MRI乳がん検診」の更なる普及を

A 彦根市立病院において「無痛MRI乳がん検診」を実施



その他の質問

- ・令和7年度国の補正予算「医療・介護等支援パッケージ」について

Q 「無痛MRI乳がん検診」の特徴は。

A 「無痛MRI乳がん検診」は検査着を着用したまま撮影でき、個人差もあるが痛みを伴わないことが特徴である。さらに、「無痛MRI乳がん検診」はMRI（磁気共鳴画像法）による検査で、放射線被ばくはない。

Q 「無痛MRI乳がん検診」を受診された方々の評価は。

A 検診を受診された方にアンケート調査を実施しており、令和7年12月末現在、263人から回答を得ている。その中で、「無痛MRI乳がん検診を受けようと思った動機」を複数回答で聞いたところ、「痛くない検査」と答えた方が約4割、「無料」と答えた方が約3割、合計すると7割を占めている。また、「検診を受けた感想」としては、「痛くなくてよかった」、「無料でよかった」、「胸を見られることなく安心できた」等があった。



▲無痛MRI乳がん検診の様子



馬場 和子議員

Q 福祉センターを福祉の総合センターにするために民間活力の活用を

A 民間施設の活用や複合化も選択肢の一つとして総合的に検討していく



その他の質問

- ・三方よしのごみ処理施設となるよう、現清掃センター敷地内で稼働しながら温水プールを併設した新施設を建設しては

Q 公共施設の有効活用のために、各分野の関係者による民間活力活用推進のための協議会の設置を提案するが見解は。

A 持続的な行財政運営や施設運営には民間活力の活用は重要な視点である。外部会議体の設置は考えていないが、公平性・透明性を確保しながら更なる民間活力の導入を進めていきたいと考えている。

Q 現在の福祉センター本館・別館や閉鎖されたままになっている軽運動室、閉館となる男女共同参画センターなどの状況から、民設民営の福祉の総合センターにすることを提案するが見解は。

A 福祉センター本館や施設群の老朽化を踏まえ検討段階であり、民間施設の活用や複合化も選択肢の一つとして総合的に検討を重ねていく。



▲福祉の総合センター化を提案する彦根市福祉センターの全景



小川 隆史議員

Q 令和8年度予算について事業見直しは

A 事業見直しは必要不可欠だ



その他の質問

- ・公共施設等適正管理について

Q 昨年度の事業見直しと比べ、削減状況が、事業数・予算額とも減少している理由は。

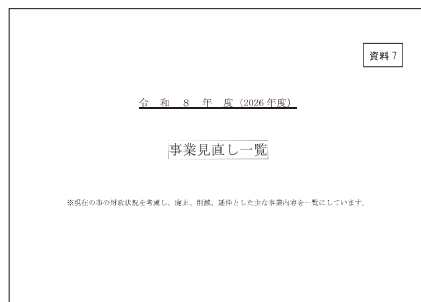
A 見直しを行う余地がなくなってきたが、毎年の事業見直しは必要不可欠と考えている。

Q フリースクールへの新たな支援として新規に取り組むこととした事業は。

A フリースクール等民間施設への業務委託として、いじめ・不登校に対する個別の相談や不登校に対する保護者への学習会開催を新たに委託することとした。

Q 県南部市町のように、企業誘致担当課が市開発許可担当課へ同行し、許可まで伴走する取り組みができないか。

A 企業誘致担当課にも情報が入ってくるので、県南部市町同様に取り組んでいきたい。



区分	計画	概算	増減	増減率	
1	総務部	4,524	16,710	9	21.2%
2	福祉部	6	10,286	6	101.0%
3	こども家庭局	18,190	1,791	9	51.8%
4	観光文化振興課	530	0	6,820	6,820
5	農林部	6	1,500	6	100.0%
6	建設部	6	2,190	6	100.0%
7	産業振興課	51,239	2,442	6	101.1%
合計	72,181	41,869	6,036	8.3%	

▲令和8年度 事業見直し一覧